

ねっとわあく

240
SEPTEMBER



長野県生協連主催 福島の子ども保養プロジェクト
「コヨット in ながの」栄村秋山郷チャレンジキャンプ(関連記事は、2ページに掲載しています。)

CONTENTS

●福島の子ども保養プロジェクト報告

- ・コヨット in ながの
栄村秋山郷チャレンジキャンプ…………… 2

●研修会報告

- ・県連防災学習会…………… 3
- ・平和学習会…………… 3

●機関会議報告

- ・第2回理事会…………… 4

●県生協連活動報告

- ・会員生協理事長・専務理事懇談会…………… 4
- ・県連広報担当者会議…………… 5

●県消団連等活動報告

- ・第4回幹事会…………… 5
- ・電力システム改革学習会…………… 5

●協同組合間等活動報告

- ・長野県協同組合シンポジウム…………… 6
- ・長野県協同組合フェスティバル2015
第3回、第4回実行委員会…………… 6

●その他の取組

- ・長野県虹の会第28回定期総会…………… 7
- ・大学生協食堂での「食育ランチ」…………… 7
- ・長野県網の目平和行進2015…………… 8

●会員生協情報

- ・信州大学生協が「学食パス」…………… 8
- ・長野県短期大学生協が「健康食券」…………… 9
- ・会員生協紹介…………… 9

●お知らせ

- ・長野県協同組合フェスティバル2015…………… 10

●INFORMATION…………… 10

福島の子ども保養プロジェクト報告

コヨット in ながの「チャレンジキャンプ」を開催しました

7月21日(火)から24日(金)の4日間、長野県生協連主催、栄村振興公社とNPO法人信州アウトドアプロジェクトの協力により、長野県栄村秋山郷(のよさの里オートキャンプ場、切明温泉・村内民宿)にて、福島の子ども保養プロジェクト【コヨット in ながの 長野県栄村秘境秋山郷チャレンジキャンプ!】を開催しました。この取り組みは、福島県の被災地の子どもたちに秋山郷でのキャンプなどの自然体験を通して、リフレッシュの場を提供し、被災地である栄村の支援にもつなげようと企画され今年で3年目になります。福島県からの参加者は子ども23人(小4~小6)でした。プログラム内容は、秋山郷の森や池の探検・生き物探し・川遊び・秘密基地づくり・草原で鬼ごっこ・流しそうめん・お祭りなどで、三泊四日のテント泊です。初日の夜には栄村秋山郷の地元のマタギの方から狩猟の話の聞いたり、三日目の昼食では秋山郷の民宿で熊汁(熊肉の煮物)を食べたり、星空夜間観察会をしたりしました。初日は不安な表情だった子どもたちも、運営スタッフの協力のおかげで無事に全員がキラキラした笑顔でキャンプを終了することができました。

◆参加者の声(抜粋)

『嬉しくて楽しかったことは森で探検したことです。最初森はちょっとびっくりしたけど、二日目になって森なんかこわくなかったのでうれしかった。一番楽しかった事は川遊びです。温泉でおたまじゃくしを捕まえたことです。足がはえているのでびっくりしました。』、『この4日間、みんなと協力して楽しく活動できた。またここで学んだたくさんのことを生かしてこれからも生活していきたい、そしてヒメボタルを見たり、サンショウウオ取りや熊汁など市街地ではできないことが体験できたのが一番楽しくて心に残った。』



防災学習会を開催しました

日時：7月13日(月) 13時00分～16時00分

場所：ホテルメトロポリタン長野（長野市）

出席：49名（6会員生協・3団体）

内容：学習会では「長野県の新しい地震災害の被害想定を学ぶこと」と「地域の防災力をアップしよう」をテーマに、長野県危機管理防災課より、講師をお招きして開催いたしました。最後にグループワークを行いました。テーマは「地域の防災活動が活性化しない理由」とし、グループ内で議論して、特性要因図を作成し発表し合いました。講師の小松主任は、防災の取り組みには終わりはありません。いつ何が起こる分からないものです。この学習会を契機に周りの人にも防災・減災の意識を広げていきましょう、と呼び掛けられました。



平和学習会を開催しました

日時：8月24日(月) 13時30分～16時00分

場所：ホテルメトロポリタン長野（長野市）

出席：40名（会員生協の組合員、役職員、関係団体他）

内容：講演1では、「特定非営利法人ピースデポ」代表の田巻一彦氏より『核兵器廃絶に向けた課題－NPT再検討会議を振り返って』と題してご講演をいただきました。NPT再検討会議では最終文書の採択はできなかったが、今後の手掛かりが二つある。『「効果的措置」をめぐる議論の場が残された：今秋の国連総会第1委員会がその重要な場になること』と、『「人道的結末」への認識が、議論の深い層に定着した。』ことと述べられました。続いて講演2では、長野県原爆被害者の会会長の藤森俊希氏より『ふたたび被爆者をつくらないために』と、題して「自らを救うとともに、わたしたちの体験を通して人類の危機を救う」という、59年前に被爆者の団体が設立されたときのメッセージを紹介され、その後、この言葉が一貫して貫かれていることを話されました。NPT再検討会議への参加者の報告として、生協代表団として参加したいばらきコープの磯部まりこ理事は、被団協代表団の方との出会いから多くのことを学びパワーをもらったこと、オーストリア政府代表部との懇談では、その前向きな姿勢に強い感銘を受けたと話されました。また民医連の代表団として参加された長野医療生協の小川洋子理事、職員の出河進氏からは、それぞれ、他国の平和活動にも触れ、これらの核兵器廃絶の運動は次世代にもつなげていかなければいけない大切な運動と実感したこと、また現地の様子をビデオ映像でご紹介いただきました。



特定非営利法人
ピースデポ
田巻一彦 様



長野県
原爆被害者の会
藤森俊希 会長



いばらきコープ
磯部まりこ 理事



長野医療生協
出河進氏・小川洋子 理事

第2回理事会を開催しました

日時：8月21日(金) 15時00分～14時30分

場所：ホテルメトロポリタン長野（長野市）

出席：16名（理事13名：監事2名：オブザーバー1名）

内容：以下の案件について審議を行い、承認しました。

1. 理事会オブザーバー参加承認の件
2. 「フードバンク信州」への正会員加盟について
3. 「フードバンク信州」立上げに関わる寄付金の拠出
4. OB会総会の開催計画
5. 会員研修支援制度（新設）の提案
6. 県議会会派代表との懇談会



続いて、第1回理事会以降の機関会議、安保法制への意見書の提出を報告し、すべて承認されました。

県生協連活動報告

会員生協理事長・専務理事懇談会を開催しました

日時：8月21日(金) 15時00分～16時30分

場所：ホテルメトロポリタン長野（長野市）

出席：31名（会員生協の理事長・専務理事及び県生協連役員・事務局）

内容：冒頭、上田均会長理事が主催者挨拶を行い、続いて日生協中央地連の木戸玲子事務局長より来賓のご挨拶をいただきました。牛澤高志専務理事の県生協連の上期の活動報告は文書報告として行われました。

記念講演「被災地は今、福島県の現状に学ぶ」と題して、福島県生協連の佐藤一夫専務理事よりご講演をいただきました。現在まだなお11万人以上の方が県内外での避難生活をされており、心身の不調が大変心配な状況であること、関連死は7/30現在1948人に登り、仮設住宅の環境の変化、災害公営住宅の応募にも偏りがあり、高齢者や一人暮らしの方が多い中で、今後の地域のコミュニティーの再生が課題になっていることや福島第一原発の廃炉作業の現状なども詳しく報告されました。

その後は、事前に集約した会員生協間協力連携活動の活動事例報告として信州大学生協の中村誠一専務理事と上伊那医療生協の野口正泰専務理事よりご報告をいただきました。



福島県生協連
佐藤一夫 専務理事



中村誠一 専務理事



野口正泰 専務理事

第1回広報担当者会議を開催しました

日時：8月11日(火) 14時00分～16時00分

場所：コープなごの篠ノ井本部B会議室（長野市）

出席：8名(長野医療生協、東信医療生協、県高齢者生協、信大生協、労働金庫、住宅生協、県連事務局)

内容：①会員生協からの広報活動に関する報告交流

②2015年度の広報担当者会議の進め方

第4回幹事会を開催しました

日時：7月27日(月) 10時30分～12時00分

場所：長野県婦人会館 1階会議室（長野市）

出席：14名（幹事・監事10名、事務局4名）

内容：鵜飼会長が議長を務め、議事を進行しました。

1. 事務局が以下の事項を提案し、協議を行い承認されました。

(1) 2015市町村消費者行政アンケートのまとめ

(2) 市町村消費者行政と消費者団体との懇談会の開催計画

(3) 第45回長野県消費者大会開催計画

(4) 適格消費者団体をめざす「なごの消費者支援ネットワーク」の立上げに向けての県消団連対応方針（1次案）

2. 喜多幹事が以下の事項について報告・情報提供を行いました。

(1) 7月26日開催「アスベスト被害相談会」の内容と今後の動き



「電力システム改革学習会」を開催しました

日時：7月27日(月) 13時00分～14時30分

場所：長野県婦人会館 1階会議室（長野市）

出席：19名（消団連構成団体、中部電力(株)長野支店、事務局）

内容：牛澤事務局長が進行し、鵜飼消団連会長の挨拶の後、講師の全国消団連板谷伸彦事務局次長から現在進行中の電力システム改革の内容

と課題、特に消費者の選択のための情報がきちんと表示されることが大切で、現在検討を進めている国のワーキンググループにも強く求めていく事が重要とのお話がありました。



全国消団連
板谷伸彦 事務局次長

長野県協同組合シンポジウムが開催されました

日時：7月6日(月) 13時30分～16時30分

場所：J A アクティールホール（長野市）

出席：200名（構成団体役員・組合員）

内容：基調講演では、明治大学教授で日本協同組合学会元会長の中川雄一郎氏が『協同組合は「未来の創造者」になれるか』と題して、協同組合デーの歴史から始まり、レイドロー報告やICAブループリントの意味、シチズンシップや参加の理論と意味について学びました。事例報告では、NPO法人J A あづみくらしの助け合いネットワークあんしんの代表理事理事長である池田陽子氏より『皆の願いを実現する地域協同の取り組み』と題して報告をいただきました。



長野県協同組合フェスティバル2015実行委員会が開催されました

■第3回実行委員会

日時：7月28日(火) 13時30分～14時40分

場所：「スイス村サンモリッツ」会議室（安曇野市）

出席：23名（長野県協同組合連絡会構成団体の役員及び構成団体の会員）

内容：牛澤高志事務局長が開会挨拶を行い、議事を進行しました。

1. 事務局が以下の議題について協議を行い、すべての事項が確認しました。
 - (1) 第2回実行委員会
 - (2) 企画（出展内容・実行委員会企画・ステージ企画）
 - (3) 広報媒体について
 - (4) 会場レイアウト、駐車場の配置、看板設置について
 - (5) 諸事項について
 - (6) その他



2. 実行委員会中に、全員で会場（サンモリッツ）及び駐車場の下見を行いました。

■第4回実行委員会

日時：8月18日(火) 15時00分～15時55分

場所：J A 長野県ビル 11階図書資料室（長野市）

出席：24名（長野県協同組合連絡会構成団体の役員及び構成団体の会員）

内容：牛澤高志事務局長が開会挨拶を行い、議事を進行しました。

1. 事務局が以下の議題について協議を行い、すべての事項が確認しました。
 - (1) 第3回実行委員会
 - (2) 出展企画（ブース数・備品等の確認・出展者へのご案内）について
 - (3) 実行委員会企画（アンケート・ステージ企画）について
 - (4) 会場レイアウト、駐車場の配置、看板設置について
 - (5) 告知チラシ・当日パンフレット「協賛広告」について
 - (6) 当日運営計画等について（看板・スタッフ証・駐車場・昼食・要員体制・救護所など）
 - (7) その他



長野県虹の会第28回定期総会が開催されました

日時：7月16日(木) 14時00分～16時30分

場所：酒井産業(株) (塩尻市)

出席：21名 (13会員、県生協連役職員)

内容：同会は、長野県に拠点を持つCOOP商品の製造流通業者18社と県生協連やコープながの、信州大学生協、セイコーエプソン生協の22会員で構成されています。今回の定期総会には13会員21名が参加しました。



定期総会に先立つ酒井産業(株)本社視察では、酒井久徳専務取締役より倉庫物流、商品アイテム、品質管理、新規開発商品などの説明を受けながら視察を行いました。その後、酒井寛代表取締役社長よりご挨拶をいただき、酒井久徳専務取締役より、商品の取り扱いの拡大と事業展開の事例などのご講演をいただきました。

定期総会は、滝崎史朗世話人(長野県農協直販(株)代表取締役社長)の開会挨拶、大谷昌史代表世話人(信越明星(株)代表取締役社長)の挨拶に続き、県生協連の上田均会長理事が挨拶を行いました。議長には、大谷代表世話人が選任され議事を進行しました。すべての議案が可決承認されました。すべての議事を終了し、塚田裕一世話人代理の保谷辰夫氏(株みすずコーポレーション顧問)より閉会の挨拶がありました。

県内の大学生協で食育ランチを提供しました

7月16、17日の両日、長野県内大学生協の食堂では「食育ランチ」の提供が行われました。「食育ランチ」は農林水産省関東農政局や県内の3つの大学生協、県生協連、県栄養士会が主催し、長野県、JA全農長野などが協賛して大学生向けに食べものや栄養についての知識や情報の提供を目的に毎年実施しているものです。

今年は7月16日に松本大学、信州大学松本あずみホール、農学部、教育学部の各食堂で、17日は信大工学部、繊維学部、松本旭会館の各食堂と長野県短期大学生協、合わせて7会場、合計870食が提供されました。「食育ランチ」の食材は協賛企業のJA全農長野、長野県農協直販(株)、伊那食品、信州ハム、みすずコーポレーションから県内産を中心に提供いただき、メニューは県栄養士会で栄養バランスを考え作成いただきました。

信大松本あずみホール食堂と工学部食堂の会場では「食育ランチ」の紹介とあわせ県栄養士会の栄養士さんによる栄養相談も実施されました。食育ランチは協賛企業の食材提供もあって、特に安く提供できました。(今回は400円でした)栄養士会の栄養相談も30人程度が自分の食生活見直しなど相談していました。



その他の取り組み

2015年核兵器廃絶長野県網の目平和大行進が行われました

日時：6月26日(金)～7月3日(金) 新潟県→長野県→群馬県

6月26日(金)～7月8日(水) 新潟県→長野県→山梨県

内容：2015年長野県網の目国民平和大行進が「核兵器のない世界」の実現、憲法9条と「非核三原則」の輝く日本の実現を目指して実施されました。6月30日(火)には、長野県庁前にて出発式が行われ、長野県生協連からはペナント参加も行いました。県庁前での出発式終了後、集会参加者全員で沿道の市民や通行される方々に平和と核兵器廃絶を訴えながら出発しました。また、7月3日(金)午後5時過ぎに碓氷峠にて折からの降りしきる雨の中、群馬県への引き継ぎ式が行われました。長野県と群馬県から約70名が参加しました。引き継ぎ式では、長野県からの報告や、群馬県側の挨拶と報告がありました。コープぐんまからは約15人の参加があり、長野県からは県生協連事務局と地元軽井沢の生協組合員が参加しました。



会員生協情報

信州大学生協が「学食パス」を導入しました

信州大学は親元を離れて暮らす学生が9割と、全国屈指の自宅外生比率の高い大学です。当然親御さんの食に対する関心は高いものがあり、「何を食べているのか」「そもそも食べているのか」と心配の種は尽きません。そこで信州大生協では今年度より「学食パス」のシステムの導入をしました。「学食パス」は親御さんに食事専用の代金を振り込んで頂き、来店されたお子さんのカードに代金分をチャージし、その際に近況報告のはがきを親御さん宛に書いていただくという仕組みです。親御さんからは「きちんと食べていることが分かって安心」「初めて子どもから手紙もらった」などの喜びの声を多数頂戴しています。

「今年の新入生 2200名の内、1500名にご利用いただいています。多くの学生が利用する食堂は昼休みには大混雑します。「学食パス」を導入し、レジスピードも2倍以上になり、レイアウトの工夫で席数も増やし、きちんと食べて頂ける環境を作り、利用者が増え、スムーズにご利用頂けるようになりました。利用する学生からも「お財布を気にしなくて楽」「小銭のやりとりがなくて便利」と大変好評です。これからも学生・保護者に喜ばれる生協を目指してがんばります。



「学食パス」は、全国の交通系ICカードでSuicaと互換性のあるカードを活用した仕組みとなっており、新たにカードを購入しなくても現在お持ちのカードで利用することが出来る便利な仕組みです。